

地域応援団



〒051-8511
 室蘭市幸町1番2号
 電話 0143・83局6277番
 ファクス 0143・83局6912番
 メール muroran-cityouren@able.ocn.ne.jp

自治会活性化推進会議 新体制で初開催

「基本方針」改めて確認

1月29日、室蘭市役所において「室蘭市町内会・自治会活性化推進会議」が、委員の増員・一部委員が交代し、25人の新体制となつて初めて開催されました。冒頭、事務局（室蘭市地域生活課・室蘭市町連）より、新体制の初めての開催から、会議の趣旨ならびに前期までの経過・令和5年4月施行の「室蘭市町内会・自治会活性化基本方針」につき、改めて説明があり、続いて、各委員・事務局について紹介、室蘭市町連・森川副会長を前期に引き続き座長に選出し、議事へ入りしました。

最初に事務局より「活性化基本方針」の施行後に実施された各取組、①市民アンケート調査・地区連合町会との意見交換の実施、②デジタル化への取組の実施、③小中学校保護者への啓発チラシの配布、④行政・企業の退職者への町内会等への参加啓発、⑤防災シンポジウム・車使用での地震津波防災訓練の実施、⑥室蘭市町連における女性理事登用について説明がありました。

続いて、令和6年度には前記に加えて、①学生・若者と町内会役員との座談会の実施案、②町内会と市民活動団体等との連携に関する研修会の実施案について説明がありました。

その後参加した各委員による意見交換が行われ、①連合に加盟している企業の力などを上手に町内会活動へ活用、②市議会議員との連携はどうか、③町内会の担い手づくりには、表彰制度などの充実によりステータスも検討してどうか、④能登地震では、日頃の訓練が功を奏し、津波災害から地区全員が無事避難できたこと報告していたが、防災への住民の関心度は高いはずで、防災情報等の発信に力を入れてはどうか、⑤租税教室のように「町内会はみんなが協力・負担して成り立っており、それが大切」であることを、小・中学校の授業でも教える事で、将来の担い手になっていくのではないかと、⑥若い世代や転入者には、町内会と関わる機会が希薄であり、町内会役員・行事イベントの役員がどの誰かがわからないなど、その解消も課題である。

以上のような今後の町内会・自治会の活性化に関わる多くの意見が出されました。

令和6年度も「室蘭市町内会・自治会活性化推進会議」は続きますので、今回いただいた多くの意見について、大いに参考とさせていただきますので、今後とも更なるご意見をよろしくお願ひします。

（室蘭市町連副会長 小林秀光）



あいさつをする森川市町連副会長



会議の様子



港北地区で行われた「避難所運営ゲーム」

港北地区連合町会と港北中生徒が協力 「避難所運営ゲーム」実施

一人一人が防災意識を高めるために、地域と学校が連携し防災教育を行っています。港北中学校では防災教育の一環として被災者が避難所に避難する際の受け入れ対応を考える「避難所運営ゲーム（ハンゲーム）」を、昨年より3年生が実施しています。港北地区連合町会も地域防災連携活動の一環として協力参加してゲームのアドバイスを実施しています。

本年も2月8日港北中学校において3年生60人が参加し、10班に分かれ港北地区連合町会から11人が参加、各班にアドバイザーとして一人が入り実施しました。

中学生は、初めての経験ですが、室蘭市防災対策課の職員からゲーム要領の説明の後、机上に避難所として体育館、教室等の平面図を置き、

各班で進行役が避難者カードを読み上げます。避難者カードには高齢者、赤ちゃんを抱えた家族、熱がある人、ベットの運搬が困難な状況など、さまざまな避難者の状況が書いてあり、他の班員は避難者の状況を話し合いながら、どの場所に避難させるかを検討していました。

中学生と地域が一体となって実施することにより、災害時にお互い協力し、スムーズな避難所運営ができるものと確信しました。

地域が一丸となり、このように防災意識の向上を図ること、減災に大きく関わって来ると、今後も地域住民を含めた各種防災活動を通じて行きたいと強く感じています。

（港北地区連合町会会長 須田貞文）

F Mびゅーで放送 町内会の取り組み紹介

3月の「町内会加入促進月間」に合わせ、F Mびゅーで室蘭市からのお知らせ特号「地域を支える町内会」を放送しました。この収録は2月27日に室蘭市からは地域生活課の西村主査、室蘭市町内会連合会からは渡部事務局長の2人で収録を行いました。放送は再放送を含め3月4日、5日、6日、8日の計4回放送されました。

放送内容は①町内会の役割や運営体制について②町内会の防災活動について③町内会役員の担い手不足について④町内会加入促進月間について等の項目で、市が取り組んでいることと、町内会連合会として取り組んでいることを紹介しました。

また、2次元コード（QRコード）を利用した「町内会加入申し込み」の説明や、3月から新たに始めた2次元コードによる

「町内会協力者募集」については、町内会の役員までではないが、できる範囲で協力したい方の申し込みが可能になったことなどを放送しました。

（室蘭市町連事務局長 渡部信人）



西村主査（右）と渡部事務局長



室蘭市共同募金委員会と善意を届けました

本年1月1日に発生した「能登半島地震」に対する義援金の協力依頼が、北海道町内会連合会を通じて北海道共同募金会からありました。

それを受け町連として1月15日～2月16日までの約1カ月間、義援金の募集受け付けを行い、2月22日に沼田会長、森川副会長、小林副会長の3人で室蘭市共同募金委員会の長谷川会長に届けました。その後も直接社会福祉協議会へ持参した町会も含め、3月11日現在で71の町内会・自治会から総額177万3815円を寄せました。

（市町連事務局長 渡部信人）

なお、この度の義援金に協力していた町内会・自治会は以下の通りです。

見晴町会、御崎町会、日の出町一丁目町会、舟見町西町町会、鈴か中央町会、白鳥台第一町会、はまなす町会、知利別ガーデンコミュニティ、港北海の台町会、輪西第三中央町会、葉山三ツ和町会、白鳥台5丁目団地自治会、白鳥台二丁目町会、沢町会、港町会、崎守町会、御前水町会、高砂双葉町会、泉町会、本輪西町会、港北町会、宮の森旭通の親交会、中島西口町会、東町町会、港北2丁目町会、瑞の江町会、西町町会、日の出町二丁目第一町会、東小路町会、白鳥台中央町会、日の出町二丁目中央町会、八丁平第一町会、八丁平中央町会、富之沢自治会、母恋北町町会、祝津町会、高砂わかば町会、石川町会、旭町自治会、知利別町中央町会、舟見町中部町会、港北新生町会、八丁平町会、中島あすなろ町会、白鳥台一丁目町会、陣屋町会、白鳥台あかつき町会、柏木町会、白鳥台ひまわり町会、母恋南町々会、宮の森町会、白鳥台みなみ町会、港北中央町会、山手町見晴町会、新富町会、天神町会、幸晴町会、寿三丁目町会、白鳥台木の実町会、高砂町会、白鳥台5丁目東町会、輪西水原町会、稲荷ヶ丘自治会、輪西第一町会、輪西第二町会、幸町会、中島第一町会、知利別第一町内会、知利別町葉山ヶ丘自治会、中島民和会、増市町会

白鳥台地区連合町会 初参加

2月29日、「地域のみなさんと関ろう！地域のためにできること」と題した防災学習が本室蘭中学校で行われました。この防災学習に今回初めて白鳥台地区連合町会も参加させていただき、中学3年生と共に災害時に地域ができることと学校の関わりについて学びました。

白鳥台地域は高齢化率が市内でも高く、災害時には避難が困難になる方が多くなることを予想されるだけに、中学生との学習は有意義なものとなりました。

最初に市の防災対策課の職員さんから、自分たちが住んでいる地域の（一人）役割を知ることを中心にお話があり、地域と

学校が連携することの重要性を改めて認識することができました。

その後、生徒と地域住民が各グループに分かれ段ボールベッドを組み立てたり、災害時に使用する簡易トイレを見学しました。段ボールベッドの組み立てでは中学生の活躍が大きく、手際よくあっという間に完成させていました。

引き続き行われた防災クロスロードでは、学校にいるときに地震が発生し津波に備えた避難時に友達が見当たらない

場合どうするか？300人が200個しか届かない場合はどうするか？大地震で自宅が半壊で避難所に避難したが、インフルエンザが大流行、あなたはどうするか？など、各チームで話し合いをしました。

生徒たちの災害時に対する考え方に安心するとともに、中学生は支援の担い手として期待できる頼もしい存在だと確信しました。

（白鳥台地区連合町会副会長 児玉智明）

本室蘭中3年生と防災学習



地域住民と共同で段ボールベッドを組み立て



防災クロスロードの話し合い